

令和元年度 方部出張型政策研究会

活動報告書

【概要版】

公益財団法人ふくしま自治研修センター

政策支援部

令和2年3月

1 方部出張型政策研究会

調査対象地域：福島県県南方部

テーマ：「人口減少・少子高齢化が進み、自治体職員も減少する中であっても、地域に必要とされる行政サービスを提供し、行政経営が可能となる自治体の在り方を考える」

2 研究会の取組みについて

人口減少が深刻化し、今後様々な制約を受ける中であっても、県南地域での心豊かな暮らしとはどういうものかを考え、描いた将来像を実現するための社会の仕組み（行政の役割）について調査研究を行い提言をまとめました。

また、今回の研究会では、従来の「フォアキャスト思考（現状分析から課題を洗い出し、解決策を考える）」ではなく、「バックキャスト思考（制約を肯定した将来像から取り組むべき課題と対策を考える）」の手法を学ぶとともに、課題設定へのプロセスに取り入れ、新たな視点からの研究に取り組みました。



3 提案施策

Aグループ：「集まれ！けんなん大家族！」～県南地域の特色を活かし助け合う暮らし



【概要】「首都圏からの近さ」、「製造業が多く立地している」、「自然（山林）が豊富」という点に着目し、「首都圏とのつながり」、「自然とのつながり」、「世代間のつながり」の3つのつながりをつくり、それぞれが助け合う暮らしを実現していく。

Bグループ：【県南地方版】ワイルド・ツーリズム・プロジェクト

～野生との分断から共生へ～



【概要】野生及び野生動物を「厄介もの」ではなく、「豊かな恵みをもたらすもの」へと捉え直し、「ワイルド・ツーリズム」を提唱。野生の恵みを「獲得する・活かす・学ぶ」ことを総合的に支援する拠点として「ワイルド・ツーリズム・ベース」を整備し、現代的な「野生と共生する営み」を構築する。

4 新聞掲載記事

○キックオフ（令和元年6月13日）



地域課題 即応目指す

県南地方の自治体対象 政策研究会スタート

ふくしま自治体研修センターは、県内自治体の職員が地域の政策課題を調査研究し、解決策を提案する「政策研究会」を、県内七つの生活圏ごとに開催する方針を明らかにした。初年度となる本年度は、県南地方の自治体を対象に設け、13日、白河市の自治体同僚会庁舎で初の研究会を開き、活動のスタートさせた。

研究会は「政策研究会」として、県の関係センターで開かれ、研究会の目的や、研究会の役割などを説明した。研究会の目的は、地域の課題を調査研究し、解決策を提案すること。研究会の役割は、地域の課題を調査研究し、解決策を提案すること。研究会の役割は、地域の課題を調査研究し、解決策を提案すること。

本年度は、県南地方市町村の職員が中心となり、研究会を開催する。研究会の目的は、地域の課題を調査研究し、解決策を提案すること。研究会の役割は、地域の課題を調査研究し、解決策を提案すること。

研究会の目的は、地域の課題を調査研究し、解決策を提案すること。研究会の役割は、地域の課題を調査研究し、解決策を提案すること。

令和元年6月17日福島民友9面

○報告会（令和2年2月7日）



ニエースフォーラム

県内

■ふくしま自治体研修センターの「政策研究会」報告会 七日、白河市立図書館で開いた。県、県内市町村の職員ら約四十人が出席した。職員九人が人口減少や少子高齢化、若者の流出など地方の課題解決に向けた研究成果を発表した。高橋の報告を聞き、世代間交流を促す施策づくりなどを提案した。東京都市大環境学部の古川柳蔵教授や県南地方振興局の安達登喜局長らが「県南らしい地域づくりの在り方を考える」をテーマに意見交換した。

令和2年2月9日福島民報29面